



健康の輪



編集●全国結核予防婦人団体連絡協議会事務局(結核予防会内) 題字●初代会長 廣瀬勝代

第49回国際結核肺疾患予防連合（ユニオン） 世界会議



名誉会員の表彰



世界賞の授与

妃殿下は、オランダで開催されましたユニオンの世界会議に初めてご臨席になりました。その中で、秩父宮妃記念結核予防世界賞の授与、結核予防全国大会や結核予防婦人会講習会などのお言葉、結核研究所国際研修生との交流、など、これまでの日本国内外における結核対策への多大な貢献に対して名誉会員の称号を授与されました。過去に結核研究者や教授など38名が授与されていますが、アドボカシー活動が授与の理由とされたのは初めてです。左の写真は、向かって左が選考委員長のジェーン・カーター氏、右は会長のチャカヤ・ムーワ氏です。

右の写真は、秩父宮妃記念結核予防世界賞を授与されているパキスタンのアミール・カーン博士です。これらの式典のほか、シンポジウム、コミュニティスペースなど様々な発表にご熱心に耳を傾けられ、発表者にとりましても大変励みになったという声を聞くことができました。

(結核予防会国際部長 岡田耕輔)

国際結核肺疾患予防連合「第49回肺の健康世界会議」に出席して 結核予防会総裁 秋篠宮紀子

昨年の10月24日から27日まで、オランダのハーグ市で開催された、国際結核肺疾患予防連合(The International Union Against Tuberculosis and Lung Disease, 略称「ユニオン」)の「第49回肺の健康世界会議」に出席しました。ユニオンの世界会議に参加することができたのは、私にとって初めての経験でした。

会議の準備や運営には、オランダ結核予防会がとても重要な役割を果たしていました。オランダ結核予防会の総裁は、オランダの国王陛下の叔母様でいらっしゃるマルフリート王女殿下です。このため、マルフリート王女殿下と親しくお話しできる機会に恵まれましたことは、大変ありがたいことでした。

100周年に向けての夕食会 と開会式

ユニオンは、設立100周年を迎える2020年に向けて、様々な事業

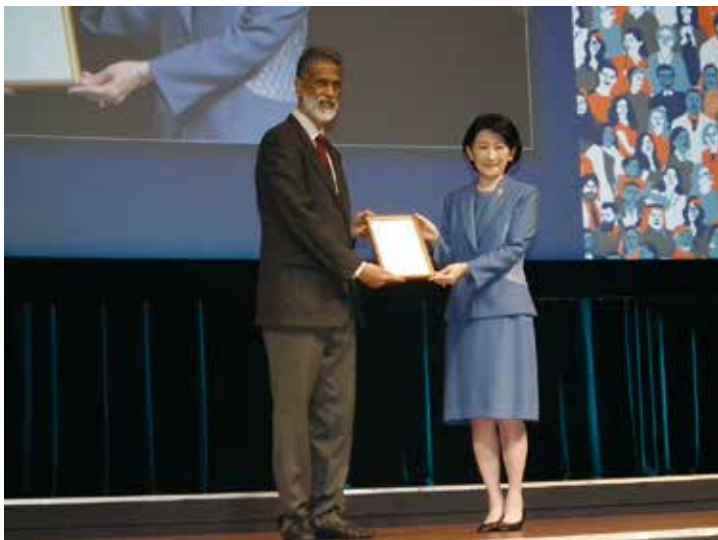


開会式の前、マルフリート王女殿下、ユニオンの事務局長（左端）、オランダ結核予防会の事務局長（右端）とご一緒に

を進めています。会議に先立ち、23日の夜は、ユニオンのムーワ会長が主催する100周年に向けての夕食会がありました。会場はハーグの中心部、オランダの国会議事堂として使用されている中世の建物の「騎士の間」で、歴史を感じさせるお部屋でした。マルフリー

ト王女殿下をはじめ、オランダの保健行政関係者や、ユニオンとオランダ結核予防会の幹部方にお目にかかり、結核に関する最近の国際的な動きなどについて、お話しすることができました。

24日の夜に、肺の健康世界会議の開会式がおこなわれました。ユニオン会長の歓迎のご挨拶の後、マルフリート王女殿下のおことばがありました。王女殿下は、今なお年間160万人が結核で亡くなっていることに世界各国が注意を向け、対策を講じるべきであること、そして、曾祖母でいらっしゃるエンマ王太后がサナトリウムの設置などの結核対策にご尽力されたことなどをお話しになりました。また、ご自身の父方のお祖母さまが結核を患われ、療養先でお祖父さまと出会われたことについてもふれられました。



秩父宮妃記念結核予防世界賞の授与式で
受賞されたカーン博士とご一緒に

秩父宮妃記念結核予防世界賞 ～結核対策への貢献を称える～

ユニオンの世界会議では、結核予防会による「秩父宮妃記念結核予防世界賞」の授賞式があります。この賞は、秩父宮妃殿下のご遺志により、結核予防活動に大きく功績のあった方を表彰します。

今年受賞されたムハンマド・アミール・カーン博士は、パキスタン国内で、結核の治療と予防に大きく貢献されるとともに、国際会議でも重要な役割を果たしてこられました。カーン博士は、結核に苦しむ人々のケアを向上させるために、まず実地調査をおこない、その結果をもとに、例えば結核患者の支援、薬剤耐性結核への対策、子どもの結核の対策などに取り組みられました。また、結核だけでなく、さまざまな病気の診断や治療が身近な医療機関で受けられるように、患者中心、住民中心の医療サービスを追求し、重要な成果を挙げられました。

世界賞の授賞式の前に、カーン博士にお目にかかり、結核対策に加えて、地域の母子保健にも力を入れて活動されてきたお話を伺いました。授与式では、結核予防会総裁として、賞をお渡しすることができてうれしく思っております。

結核予防会の展示と 複十字シールコンテスト

「肺の健康世界会議」では、会場内に設けられた結核予防会の展示コーナーを加藤結核研究所所長の案内で見ることができました。結核研究所の国際研修などが紹介されていました。

また、複十字シールコンテストが、毎年この「肺の健康世界会議」の会場でおこなわれます。昨年は

日本の複十字シールが1位でしたが、今回は、1位がインド、2位が韓国、3位が香港となりました。1位のインドの複十字シールは、様々な伝統舞踊の図柄でした。



インドの複十字シール

オランダ予防会事務局長に、日本の 婦人会会長からのリボンバッジ

前号でオランダ結核予防会の「エンマ・フラワー」のお話をお伝えいたしました。それをご覧になった結核予防婦人会会長の木

下さんが、シールぼうやとシールちゃんのリボンバッジを2組お作りくださいました。

私と共にオランダへ旅をしたりリボンバッジの1組は、オランダ結核予防会の事務局長キティ・ファン=ヴェーセンバークさんにお渡ししました。とても喜んでお受け取りくださいました。もう1組は私の手元に大事に持っております。これからも日本とオランダの結核予防活動において、様々な形で交流が続くことを願っております。

大会に参加して

結核予防会の総裁として携わってきた結核予防活動により、この度ユニオンの名誉会員となりました。これまで、結核予防会の職員、そして結核予防婦人会の皆さまに支えていただき、総裁の務めを続けることができたことを大変ありがたく思い、皆さまのお力に、心から感謝しております。これからも、結核をなくすために、そして人々の健康のために、更に力を尽くしていくことができるという気持ちを強く持ちました。

ユニオンは、経済的に恵まれず、結核などの疾病の脅威にさらされている人々が、必要な医療サービスを受けることができるように、世界各地で様々な活動をしています。

次回の「肺の健康世界会議」は、来年2019年10月27日から11月3日まで、インドのハイデラバード市で開催されることが決まっています。第50回の節目の大会に向けて、すでに準備が始まっています。世界中の結核対策の関係者が集う、この大事な会議が、更に意義深いものとなることを願っています。

カンボジアスタディツアーに参加して ～カンボジアの結核対策の現状と今後への期待～

宮崎県都城保健所

次長（技術担当）兼健康づくり課長 木添 茂子

平成8年より、複十字シール募金による結核対策国際協力事業の視察を目的として開始されたカンボジアスタディツアー。途中、3回の中止を挟み今年度で10回目となる本ツアーに7名で参加しました。出発前日の12月3日の夜、成田のホテルで山下顧問、佐藤副部長より行程や現地での注意事項等の説明を受け、山下顧問から12月5日から7日までのツアー期間中はワンコインワンユニフォーム募金活動で作成されているポロシャツを着用し日本結核予防婦人会の活動をPRしてくださいと話をいただきました。

1日目は現地の結核対策の現状を知るべくプノンペン市内にある縫製工場とシール募金の支援により活動しているCATA(カンボジア結核予防会)事務所の表敬訪問、2日目はピアレン医療圏にある郡の病院と保健所を視察しました。3日目は、カンボジア国立保健科学大学(HUS)と結核予防会(JATA)が協力して設立された健診・検査センターを視察しました。3日間の視察の中で、日本とカンボジアの結核対策と医療事情には、大きな隔たりがあることを改めて実感しました。

まず、日本では感染症法に基づいて結核対策が推進されており、国、県、市町村の役割が定められています。定期健診の対象者は、市町村で対象者が把握され受診・未受診の管理もされています。一方、カンボジアでは村の名士や敬愛されている人物がヘルスボランティア(VHSG: Volunteer Health Support Group)に選ばれ各村に2名ずつ配置されています。VHSGは、2週間の教育を受けツベルクリン検査やレントゲン検査対象者への案内、DOTS等は無償で行っています。VHSGの活動は日本の保健師的な役割を担っていますが、住民の健診管理を行政ではなく地域ボランティアの意味合いの強いVHSGが担っていると聞き、驚きと検診の周知が徹底されるかと不安を抱きました。

次に医療従事者養成を含む医療事情についてですが、日本の大学の医学部には、附属病院が併設され実習が行われています。ところが、カンボジアの国立保健科学大学に医学部、歯学部、薬学部がありますが、附属病院がないため6年間の座学中心に学んだ後実習が行われています。現在、附属病院建設に向けた計画が進行中です。看護師、放射線技師、検査技師等は、専門学校で養成されています。民間のクリニックには検査機器が整備されておらず、診療報酬も一律ではありません。富裕層は医療環境が整った外国で健診をうけるという状況がカンボジアの医療事情を物語っています。今年、国立保健科学大学とJATAの共同で健診・検査センターが設置されましたが、日本式健診システムの導入、検査機器整備によりクリニックからの検査依頼が増え早期診断が可能になれば、カンボジアの医療事情も変化してくると思いました。

市内では、建設中の高層ビルや日本的高级車、道路沿いの多くの店とそこに集まる人々をみるたびに活気を感じました。5～10年後、カンボジアの結核対策、医療事情にどのような変化が訪れるか自分の目で確認したいと思いました。🐾



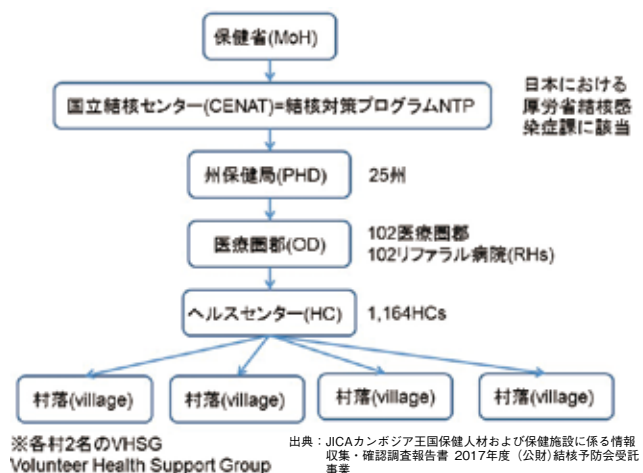
CATA表敬訪問

目録贈呈



健診センター受付

検査センター



会長就任ご挨拶

沖縄県結核予防婦人連絡協議会
会長 本永 静江



平成30年8月13日付で、第14代会長を仰せつかり、重責を感じつつ身の引き締まる思いで会活動に取り組んでいます。

8月後半に複十字シール運動の

勉強会を開き、各地区及び地域の

婦人会の皆さんへ依頼しました。私たち執行部は9月中旬から各企業・警察・日本郵便・自衛隊へ複十字シール運動の協力依頼を行いました。

かつて「国民病」とおそれられていた結核も戦後、国を挙げた取り組みにより順調に改善されました。本県においても、ここ数年の新登録結核患者数は200人前後で

推移しています。

この背景には、結核に対する関心の低下、高齢者結核の増加など新たな課題があります。本会では、明るく健康で住みよい社会をめざし、結核予防のための活動を展開しています。結核のない世界をめざして結核予防婦人連絡協議会として知識の研鑽を重ねて、普及啓発につとめて参りたいと思います。

世界保健機関（WHO）西太平洋地域事務局長選挙

公益財団法人結核予防会
国際部業務課 紺 麻美

2018年10月9日、「投票開始…終了」、「開票…」投票会場にいるスタッフから、メッセージアプリを通じて控室に続々と情報が流れてきます。フィリピン候補、葛西候補、ニュージーランド候補、マレーシア候補の順で行われた各候補の演説、質疑応答が終わり、後は投票を待つだけとなっていました。

選挙が行われたマニラでは最終局面を迎え、各国レセプションや会議を通じて、最後の駆け引きが続きました。日本チームも夜を徹して、刻々と変わる状況に対応すべく選挙対策を練られていました。また、日本らしく折り鶴やダルマで必勝を祈願しました。

開票は投票数が少ない順に読み上げられ、最終的に葛西先生が過半数を取得し、当選。約6か月に渡って繰り広げられた選挙活動はめでたく終わりを迎えました。当選スピーチでは、就任初日から事務局長としての責務を果たすこと、各国の状況・ニーズにあわせた対策を取ることを約束されました。任期となる5年間でどのように世界が変わるのか期待されます。🍷



参加国保健大臣



日本のレセプション会場の様子



選挙チーム

平成30年度地区別結核予防婦人団体幹部研修会（5地区） 開催地よりご報告

北海道地区

北海道健康をまもる地域団体連合会
会長 齋藤 芳子



平成30年7月10日(火)～11(水)ラベンダーの花香る美瑛の国立大雪青少年交流の家に於いて、道内各地から受講生関係者総勢53名が参加し開催されました。この講習会の目的は「健康に関する正しい知識をより一層深めるとともに、各地域の親善交流を図り、家族の健康をまもる地域保健活動を進展する様研鑽する事を目的」として開催され本年は第51回目を迎えました。

第1日目…オリエンテーション、開講セレモニーを実施、この日はあいにく雨天となり、野外スポーツは中止、映画鑑賞と輪投げ、シール坊や缶バッジ作成にプログラム変更となりました。

全体交流会を開催、「健康の歌」を声高らかに合唱「あなたの地域の健康づくり」をテーマに班別討議を行い発表と意見交換を行いました。

第2日目…北翔大学小坂井留美教授による「健康寿命延伸に向けた運動の役割～肺の健康と介護予防」の講演は高齢世代の大きな関心呼びました。料理研究家上坂マチコ先生の「食事と健康若さを保つ方法－健康長寿は食事が決め

て」の講演も、毎日の食生活が基本との内容でした。

この講演は後日、札幌北区地域女性部文化講演会にて再講演され300名の参加を頂きました。COPD対策で結核予防会の肺年齢測定には行列ができる程でした。



予防会募金推進部推進課長久保田登子氏の御指導、助言のもと、フロアからの意見、質問等が続出し全員参加型の活気あるシンポジウムが展開されました。

続いて講演Ⅰでは、結核予防会結核研究所名誉所長の森亨先生による「子供の結核ゼロから結核収束へ＝BCG接種＝」がありました。BCGの効果と大切さを学び、乳幼児期から予防する必要性を再確認し、地域に啓発する必要を感じました。

今回は特別講演も計画し、結核予防会複十字病院呼吸ケアリハビリセンター付部長の千住秀明先生から素晴らしいお話を伺いました。研究者として、臨床医として、大学の教育者としての御経験の豊かさと人間性に満ちた医療の在り方に、一同魅了され、息をのんで

東北地区

青森県地域婦人団体連合会
(青森県結核予防婦人会)
会長 向井 麗子



平成30年11月15日、東北各県から180名の参加者が、グランドサンピア八戸に集い、「これからも地域と

ともに～婦人会として出来る事～」をテーマに研修会を開催しました。

各県のシンポジスト6名が各々活動事例発表を行い、その後結核



聴講させていただきました。

初冬の肌寒い日でしたが、参加者は充実した研修会に参加できたと感動と感謝の意で会場を後にしました。

東海北陸地区

石川県結核予防婦人会
会長 能木場 由紀子



平成30年度東海北陸地区結核予防婦人団体幹部研修会は、12月13日(木)～12月14日(金)

の日程で金沢市のKKRホテル金沢を会場に東海北陸7県から76名の参加で開催されました。

結核研究所名誉所長森亨先生より「子どもの結核ゼロから結核終息へ～BCG接種～」と題して、BCG接種の効果と大切さをご講演いただきました。引き続き結核予防会工藤翔二理事長による「結核今昔物語」をお聞きし、油断大敵を肝に銘じました。結核予防会小林典子理事からは、複十字シール運動について詳しくお話され、グループワークでの助言もいただきました。参加の会員から大変勉強になったと、多くの感想が寄せられました。

懇親会は加賀料理に加え香箱カニで遠来の方々をおもてなし、各県の郷土芸能で大いに盛り上がり絆が深まりました。

翌日は金沢城公園を散策し、玉泉院丸庭園で抹茶をいただき、充実した2日間の幹部研修会となりました。



近畿地区

和歌山県健康を守る婦人の会
会長 堰本 信子



平成30年11月19日～20日、ダイワロイネットホテル和歌山において、

結核予防に関する知識の向上と普及啓発及び近畿地区各団体相互の親睦を図ることを目的とし、近畿各府県市より約100名が参加して開催されました。

講習会では、まず「いのちからいのちへ～生かされていると気づいた日～」と題して、岩崎順子氏による講演、続いて「結核ってなに？」のDVD上映と、複十字募金活動の取り組み、結核予防会の活動について、公益財団法人結核予防会出版調査課の辻知子氏からお話をいただきました。

懇親会では、歌あり踊りありで楽しく賑やかに時を過ごしました。

翌日は、「食と健康～量とバランスとタイミング～」をテーマに、管理栄養士の伊藤智子氏の講演を受け多くのことを気付かされ、また、結核研究所名誉所長の森亨先

生による講演「子供の結核ゼロから結核終息へ～BCG接種～」では、先生の熱意に心打たれました。

私自身が中学2年生の時に、結核で1年間休学を余儀なくされたことを思い起こし感無量でした。体力の弱い子ども・高齢者の結核終息へ向けて、更なる学習・努力・啓発を実践しなければの思いで2日間の幕を閉じました。



九州地区

熊本県健康を守る婦人の会
会長 棚橋 康子



平成30年11月14日～15日、九州8県より238名の参加を頂き、ホテルメルパルクにて、

第50回の幹部講習会を開催しました。

第一日目は結核予防会の専門家森亨名誉所長と熊本南病院の山中徹先生による結核の現状と課題について迫力ある講義を拝聴。次に身近な生活習慣病COPDについてリハビリ実習をかねた千住秀明先生の指導に一日の緊張が柔らかにほぐされるのを感じました。お楽しみの夜の交流会は各県飛び入りのカラオケや舞踊、熊本の子ども

たち花童の華麗な舞踊と熊本県の「おてもやん総踊り」で会場全体が盛り上がり楽しい親睦の夜となりました。

2日目は「地域における結核予防会の活動」のテーマで長崎県、佐賀県と熊本県の取組み説明の後、全体で「どうすれば複十字シー

ル運動をもっと社会にPRできるか」「官民一体となった活動を推進するにはどのような活動をすべきか？」について予想以上の熱い意見が続発し、時間切れで終了せざるをえなかったのが残念に思う。時代の動きに合わせて、活動を柔軟に変えていく必要があると

痛感した。楽しくも充実した講習会となり、次回が楽しみになりました。



被災地支援 「心の絆プロジェクト2018」レポート

2011年7月から出発した「社団法人心の絆プロジェクト」に本協議会は協力して早7年目を迎えました。2018年11月11日、昨年訪問した宮城県気仙沼市内の脇（ないのわき）災害公営住宅集会所で「健康よろず相談会」を行いました。午前中住宅を戸別訪問して午後の健康相談会のチラシを配布説明し、午後の時間に備えました。季節的に「牡蠣祭り」などの催しと重なって留守宅が多い中、16名の参加者と共に「肺年齢測定体験」「血圧測定」「健康相談」「ゲーム」「風船細工」「歌」等々3時間あまりを楽しく過ごすことが出来ました。

お馴染みになった住民の方々との交流は別れを惜しみながら「又来年も……」と勇気づけられて帰ってきました。待っていて下さるの方々がいる限り継続していきたいと思います。

地元の皆様「本当にありがとうございました」と感謝申し上げます。

全国結核予防婦人団体連絡協議会事務局長・理事 山下武子



コラム 平成の時代に想う

埼玉医科大学医学部 社会医学
教授 亀井美登里



振り返ってみると

平成という時代が幕を閉じようとしています。昨年（平成30年）12月に発表された今年の漢字は「災」、自然災害の多い一年でした。民間の調査によれば、平成を象徴する国内の出来事は、1位東日本大震災、2位サリン事件等オウム真理教事件、3位阪神・淡路大震災だそうです。大災害の続発やバブル崩壊後の経済低迷等社会全体が不安定なイメージで覆われます。不安が先行した時代だったのかもしれないかもしれません。鉛色の時代とでもいえましょうか。

人生100年時代

日本の平均寿命は、戦後間もない1947年男性50歳、女性54歳から平成元（1989）年76歳、82歳、今では81歳、87歳と右肩上がりに伸び続けています。

英国ロンドン・ビジネススクール教授のリンダ・グラットン氏は著書「LIFE SHIFT(ライフ・シフト)」で長寿時代の生き方について、次のように述べています。①長寿化は、社会に一大革命をもたらし、人々の働き方や教育、結婚の時期や相手、子どもを作るタイミング、余暇時間の過ごし方、社会における女性の地位も変わる。②最も大

きく変わることが求められるのは個人であり、親の世代とは異なる選択をし、子どもたちは私たちの世代とは違う決断をすることになる。③長寿化を恩恵にするためには、まずは視野を広げること、長く生きられるようになった年月の大半を、私たちは健康に生きることになり、人生の締めくくりの時期の準備だけでなく、人生全体を設計し直す必要がある。世界でいち早く長寿化が進んでいる日本は世界の先頭に立ってほしいと思っています、と。

スポーツと感動

新しい時代は2019年ラグビーワールドカップ、2020年東京オリンピック、パラリンピックと大きなスポーツイベントが相次ぎます。スポーツは人々に感動と興奮を呼び起こします。第2次世界大戦19年後、アジアで初めてのオリンピックが東京で開催され、日本の復興した姿を世界に印象づけました。東洋の魔女の女子バレーボール優勝をはじめ16個の金メダルを獲得した日本勢の活躍は日本中に感動と興奮をもたらし、改めて日本人の絆を強く感じさせてくれました。

そして平成時代の最後に、女子テニスの大坂なおみ選手が世界四大会今季初戦の全豪オープンで優勝し、アジア選手初の世界ラン

ク一位という快挙を成し遂げました。「大坂折れず成熟のV」という見出しの下、大坂選手は自ら最大の課題に掲げる「成熟」、つまり思い通りにいかない状況を受け入れる力を観衆の前で見事に発揮して感動を与えてくれました。

必死に戦う選手の姿は観戦している一人ひとりの日々の生活と重なるのかもしれない。

感動する心

感動なしに人生はありえません。最も幸せに暮らせた人は、一つでも多く良い思い出を持つことができた人です。そして、その忘れられない思い出の基礎にあるのは、「感動」以外の何ものでもないのです。「思いやり」「気配り」「心づかい」は、人間一人ひとりがそれぞれ勝手な形で抱いているものですし、違っていいのです。

これから、どんな時代が広がるのでしょうか。これからの時代、AI(人工知能)やVR(仮想現実)等技術革新が進み、イノベーションが加速化する中、人類の存在そのものが問われそうです。

しかし、時代を超えても人間の心は変わりません。自分たち自身で感動を紡ぎ、次なる時代を金色に輝かせたいものです。🐱

ちふれ化粧品は・・・

「誰もが手に入れやすく、安心してつかえる化粧品を。」という思いを込めて創り出した私たちの化粧品です。



ちふれが、約束すること。

- **高品質・適正価格であること。**
製造や販売にかかる余分なコストを削減して、高品質を適正な価格でお届けします。
- **無香料・無着色であること。**
肌によさしくありたい。だから、ちふれのスキンケアはすべて無香料・無着色です。
- **全成分・分量・配合目的を公開すること。**
品質の確かさや商品の安全性だけでなく、自分の肌に合った化粧品の内容を知っていただくためにも、すべての製品の全成分・分量とその配合目的を公開しています。
- **製造年月をすべての容器に表示すること。**
誰にもわかりやすく、安心して使えるように、製造記号を製造年月で表示しています。
- **環境問題に配慮すること。**
毎日使う化粧品だからこそ、環境を大切にしたい。ちふれは、詰替化粧品や植物由来容器の導入などで、環境問題に配慮しています。



ちふれ

あなたの、健康のそばに。



大正製薬



しあわせは、明日も健康であること。

人々の健康意識を高めること、日々の生活をOTC医薬品でサポートすること。
それが「セルフメディケーション」をスローガンに掲げる私たち大正製薬の使命。

OTC 医薬品のリーディングカンパニーとして、

より優れた医療用薬品の開発に力を入れるチャレンジャーとして、
常に「生活者の健康でより豊かな暮らし」の実現を目指しています。